

武藏野珈琲店

住所：東京都武藏野市吉祥寺南町1-16-11 萩上ビル2F
電話：0422-47-6741
営業時間：12:00～20:00
定休日：年中無休



マスターも登場



『火花』又吉直樹

第153回芥川龍之介賞を受賞した中編小説『火花』(文藝春秋、2015)。作中には主人公らが武藏野珈琲店で過ごす様子が描かれている。マスターは常連のお客さんから『文藝春秋』に掲載されていることを聞き、すぐに書店に買いに走ったそう。

(上)『火花』の中で主人公の徳永が頼んだブレンド珈琲(680円)と先輩の神谷が注文したチーズケーキ(ガトーフロマージュ)570円。(下)ヴィスコンティの映画『家族の肖像』のようなサロンをイメージした店内には、季節の花が飾られている。(左上)時間を惜しまずネルドリップで丁寧に淹れる珈琲がこだわりのひとつ。

知つた人々が殺到する前にお店に行かねば！”という妙な焦燥感に駆り立てられてお店に向かつたことがある。

その日は残念ながら主人公の徳永と先輩の神谷が座つた窓際の席は埋まっていたので、カウンター席で徳永が頼んだブレンド珈琲を飲んだ。武藏野珈琲店は手作りケーキが食べられるお店である。『火花』には、珈琲専門店のためケーキのみの注文はできないことを知つた神谷がブルーマウンテンと一緒に頼む場面が描かれている。若い客の中には節約のためにケーキだけの注文をする人もあり、そのたびに神谷にしたような説明をしているという。

著者の又吉直樹はお笑いコンビ「ピース」として売れる前から武藏野珈琲店に来ていたそうで、「私やスタッフの様子をよくご覧になつて、小説に書かれたのだと思います」とマスターの上山雅敏さんが話していた。

カウンター席に座ると、タイミングがよければ上山さんがネルドリップで珈琲を淹れる様子が見られる。珈琲の粉が生き物のように動くのを眺めながらマスターと話をするとひととも楽しい。テーブル席でぼんやりしたり、窓際の明るい席で本を読んだり。何度も何度も樂るの過ごし方ができるお店で、また行きたくなる。



又吉直樹はよく窓際のこの席に座り、読書をしたり書き物をしたりしていたそう。

小説やエッセイの中に実在のお店が登場することがある。
読書好きにとっての聖地ともいえる、本やエッセイに登場する
喫茶店と作家が通つた喫茶店をめぐってきた。

本と作家と喫茶店

熊谷あづさ（ライター）

流行りのお店が立ち並ぶ街の中で、ひつそりと佇む喫茶店に目が留まることがある。お店に入り淹れたてのコーヒーを飲みながら、本を片手にゆっくり過ごすだけでも十分に幸せだが、その喫茶店にまつわる物語を知れば幸福感はきっと倍増する。

芸人の夢を育んだ店

二〇年ほど吉祥寺に住んでいた。雰囲気のいい喫茶店がたくさんある街で、散歩の途中に入つたり、仕事をしたり。その頃にお世話になつた喫茶店のひとつが武藏野珈琲店だ。

吉祥寺駅南口からマルイに向かつて右側の道を井の頭公園方面に向かうと左の建物の二階に赤地に白抜きで店名とコーヒーカップが描かれたテントが見える。広いカウンター席には季節の花が生けられ、その奥には上質な食器が並んでいる。テーブル席はゆつたりとしていて、特に陽が射し込む窓際の席が空いていると「ラツキー」と思う。

芥川賞を受賞した『火花』を刊行時に読み、舞台のひとつが吉祥寺だと知つて登場人物たちに親近感がわき、武藏野珈琲店が登場する場面で気分が高揚した。『火花』で武藏野珈琲店を

写真=角田慎太郎（武藏野珈琲店、物豆奇、ロージナ茶房）
五十嵐和博（喫茶 ブリッヂ、喫茶ルオーラ、カフェパウリスタ）